

G-7 日本手話における時制と連動した非手指アスペクトマーカの予備的研究

松岡和美 (慶應義塾大学) matsuoka@z7.keio.jp

要旨

手話言語には口型(口の形)を含む非手指表現があり、それらは形態・統語・意味・談話のすべてのレベルで文法的機能を持つとされているが、その詳細な記述はまだ十分には行われていない。日本手話を含む手話言語の多くには時制を示す文法表現がなく、多くの場合、時制表現で示される情報は、副詞で表されるか、文脈から推測される。本研究では、非手指表現の完了相を表す2種類の口型を取り上げ、それらの使い分けが時制と連動していることを指摘する。本研究でなされた観察は、音声言語・手話言語に関わらず、時制を持たない言語に共通するアスペクト表現の種類の考察に資するものである。また、手指表現のないpa口型および形態素-タが共起できる動詞タイプは、金田一(1950)の「瞬間動詞(第二種)」「継続動詞(第三種)」の分類による記述が可能である。

1. はじめに

日本手話¹を含む手話言語の多くには、時制を示す文法マーカがないことが知られている(Pfau et al. 2012)。例(1)は、日本語訳に示したように、過去と非過去の両方の解釈が可能である。時制に関わる情報は、副詞で表されるか、文脈から推測される。

- (1) a. 昨日 田中 来る (昨日、田中が来た)
b. 明日 田中 来る (明日、田中が来る)

手話言語の完了相の研究は多くはない。Meir(1999)で報告されているイスラエル手話の完了相は手指表現(ALREADY)で示され、過去完了・未来完了の両方の用法がある。

- (2) I ALREADY EAT NOW.
'I have just eaten now.' (もう食べてしまった)
(3) WEEK FOLLOWING THEY (dual) ALREADY MARRIED.
'Next week they will already be married.' (来週には結婚してしまっているだろう)
Meir (1999:45、日本語訳は発表者作成)

後述するように、日本手話にはアスペクトを表す非手指表現が存在する。Herrman (2013:39)では、口型を含む非手指表現は、語彙の一部になり得るだけでなく、形態・統語・意味・談話のすべてのレベルで文法的機能を持つことが指摘されている。日本手話の口型(マウスジェスチャー、mouth gestures)もまた、日本語の口形通りのマウジング(mouthing)とは異なることが以前から指摘されて

¹ 日本手話とは、ろうの両親のもとに生まれ、ろう児が出生時から母語として習得する自然言語をさす。日本語の口話に補助的に手話単語をつける日本語対応手話とは異なる文法的特性を有する(岡・赤堀 2011; 松岡 2015 など)。

いる(木村 2011; 坂田ほか 2008)。日本手話の口型が段階的形容詞の極性に連動する例(Matsuoka and Gajewski 2013; Matsuoka et al. 2013; 松岡 2015)も、口型に抽象的な特性が備わっていることを示唆している。本研究では、海外の手話研究では報告がほとんどない、非手指表現の完了相を示す口型の性質を考察する。

2. 日本手話のアスペクト表現

日本手話のアスペクト表現には、以下の3つのタイプがある(木村 2011、松岡 2015)。

A. 形態素を追加するもの

/中/ 進行相を示す

- (4) /バレーボール 中/ (バレーボールをしているところだ・しているところだった)
/書類 作る 中/ (書類を作っているところだ・書類を作っているところだった)

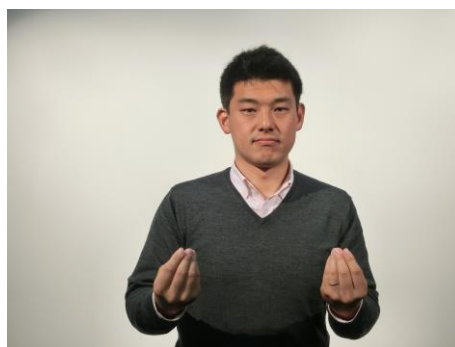
B. 細かい動きの繰り返しなど、手話全体の動きが変化するもの

(+++は、継続相を示す細かい繰り返しの動きを示す)

- (5) /食べる+++/ (食べ続ける・食べ続けた)

C. 手指表現と口型(口の動き)が共起するもの

- _____pa
(6) /食べる 終わる/ (食べてしまった)



日本手話 /終わる/ (松岡 2015)

本研究の主張：日本手話の完了相には、時制と連動した口型アスペクト表現が存在する。
--

3. 日本手話の完了相における2つの口型

手指表現/終わり/と共起して完了形を示す口型には2種類あり(pa、owari)、両者は過去完了・未来完了で相補分布を成す。

◆過去完了 (pa)

- (7) a. 昨日 私 ラーメン 食べる 終わる pa (昨日私はラーメンを食べ終わった)
b. *昨日 私 ラーメン 食べる 終わる owari (昨日私はラーメンを食べ終わった)

◆未来完了(owari)

- (8) a. *明日 昼2時 私 ラーメン 食べる 終わる pa
(明日の昼2時には私はラーメンを食べ終わっているだろう)
b. 明日 昼2時 私 ラーメン 食べる 終わる owari
(明日の昼2時には私はラーメンを食べ終わっているだろう)

仮定の状況を示す節内では、口型 owari ではなく pa が容認される (仮定法過去)。

(▼は条件節の終わりに生じる「固定一解除」のうなずき (市田 2005) を示す)

- (9) a. もし 今 旅行 保険 入る 終わる▼ 安心 pa (もし今、旅行保険に入ったら安心です)
b. *もし 今 旅行 保険 入る 終わる▼ 安心 owari (もし今、旅行保険に入ったら安心です)

明確な時制表現を持たないとされる中国語では、時制に関わりなく使える完了マーカー (了) の他に、過去完了のアスペクト表現 (过) が見られる。

「‘動詞+过’は過去の経験を表すので、必ず過去という時間と関連をもつ。‘動詞+了’は完了を表し、必ずしも過去との関連はない。過去に用いてもよいし、現在・未来に用いてもよい (呂叙湘主編・牛島・菱沼監訳 2003:159)」

- (10) a. 去年我们游览过长城 (去年長城に遊びに行ったことがある)
b. 我们已经游览了长城 (すでに長城を見終わった)
c. 明天的计划是游览了长城再去参观水坝
(明日の予定はまず長城に行き、それからダムを見学する)
- (11) a. 他当过班长 (彼は班長になったことがある：今はもう班長ではない)
b. 他当了班长了 (彼は班長になった：今もなお班長である)

_____pa

日本手話の/終わる/は、中国語の‘过’と同様、過去時の状況にしか使えない。

_____pa

(12) PT3 班長 終わる (彼は班長になったことがある。今はもう班長ではない)

_____owari

それに対して、日本手話の/終わる/は、未来時制にしか使えない完了相の表現である。

4. 日本手話の過去完了表現に見られる動詞タイプ

日本手話の過去完了の表現が共起できる動詞のタイプには制限がある。手指表現のない pa 口型が共起できる動詞のカテゴリーは、金田一(1950)の「瞬間動詞(第二種)」「継続動詞(第三種)」の分類で記述が可能である。

A. 手指表現のない pa 口型

口型 pa は、瞬間動詞(瞬間に終わってしまうような動作・作用を表す)と共起できる²。

_____pa

(13) a. /辞める/ (辞めてしまった)

_____pa

b. /辞める 終わる/ (辞めてしまった)

継続動詞の完了形では、手指表現/終わる/と口型 pa が両方必要である。

_____pa

(14) a. *読む

_____pa

b. 読む 終わる (読んでしまった)

これらの例から、過去完了の表現を構成する手指表現/終わり/は完了の意味を、口型 pa は過去時制の意味をそれぞれ表していることがうかがえる。未来完了の口型 owari は、単独では使えない。

_____q

(15) A: PT2 来年 留学 予定? (来年、留学するつもり?)

_____owari

B1: うなずき 今年 仕事 辞める 終わる

(うん、今年中に仕事を辞めちゃう)

² /見たパ(口型 pa)/という手話動詞には、/終わる/を後続させることはできない。この場合の口型 pa は、語彙を構成する要素の一つであると考えられる。

B2 : *うなずき 今年 仕事 ^{_____}owari
辞める

B. 完了の形態素/-タ/

過去の完了を示す他の表現には、形態素/-タ/がある。木村(2011)によると、この形態素には cha 口型が使われるとあるが、ta 口型をとる表現もある。ta 口型を伴う/-タ/は、瞬間動詞とは共起できないが、継続動詞とは共起可能である。

^{_____}ta
(16) a. *辞める-タ (辞めてしまった)

^{_____}ta
b. *壊れる-タ (食べてしまった)

^{_____}ta
(17) a. 来る-タ (来てしまった)

^{_____}ta
b. 食べる-タ (食べてしまった)

なお、この形態素に仮定法過去の用法はない。

^{_____}ta
(18) *もし 今 旅行 保険 入る-タ▼ 安心 (もし今、旅行保険に入ったら安心です)

5. おわりに

日本手話の完了相の手指表現には/終わる/および形態素/-タ/があり、それぞれ決まった口型が付随する。/終わる/に付随する口型には pa と owari があり、それらの使い分けは時制によって決定される。owari 口型は、日本語のマウジング由来と考えられるが、日本語の「終わり・終わる」にはない未来完了に用法が限定がされることも特徴のひとつである。これらの観察は、時制表現がないと考えられてきた手話言語にも、文法的な時制が存在する可能性を示唆するものである。時制で制限を受ける完了相マーカーには、中国語の‘过’がある。本研究の日本手話の口型 pa, owari の基本的な性質の記述は、音声言語・手話言語に関わらず、時制を持たない言語に共通するアスペクト表現の種類の考察に資するものである。

謝辞

この研究テーマに取り組むきっかけとなる観察を示してくださった日本手話ネイティブろう者の皆さまに感謝したい。西脇将伍氏・矢野羽衣子氏には例文の文法性に関するコメントをいただいた。ハーバード大学デイビッドソン研究室・コネチカット大学 Sign Linguistics Research Discussion Group の参加者・山崎直樹氏（関西大学）からも貴重な情報やコメントが寄せられた。ここに謝意を表したい。本研究は、基盤研究（B）「手話言語の文法における『非手指要素』の意味的・統語的性質の研究」（課題番号 26284061）および基盤研究（B）「手話言語における空間と語順のインターアクション：言語学的特徴とその発達」（課題番号 19H01259）の補助を受けた。

参考文献

- 市田泰弘. 2005. 「手話の言語学第9回 頭の動き・位置と顔の表情：日本手話の文法（5）文タイプと従属節」『月刊言語』9月号. 94-101.
- 岡典栄・赤堀仁美. 2011 『文法が基礎からわかる 日本手話のしくみ』東京:大修館書店.
- 木村晴美. 2011. 『日本手話と日本語対应手話（手指日本語）：間にある深い谷』東京：生活出版.
- 金田一春彦. 1950. 國語動詞の一分類. 『言語研究』15, 48-63.
- 坂田加代子・矢野一規・米内山明弘. 2008. 『驚きの手話「ハ」「ポ」翻訳 翻訳で変わる日本語と手話の関係』大阪：星湖舎.
- Pfau, R., M. Steinbech, & B. Woll. 2012. Tense, aspect, and modality. In R. Pfau, M. Steinbech & B. Woll. Eds. *Sign Language: an International Handbook*. 186-204. Berlin:Walter de Gruyter.
- Herrmann, Annika. 2013. *Modal and focus particles in sign languages: A cross-linguistic study*. Berlin:Walter de Gruyter.
- Matsuoka, Kazumi and Jon Gajewski. 2013. The polarity-sensitive intensifier mouth gestures in Japanese Sign Language. *Journal of Japanese Linguistics* 29, 29-48.
- Matsuoka, Kazumi, Uiko Yano, and Masahiro Minamida. 2013. Grammatical Functions of Mouth Gestures in Japanese Sign Language. On-line proceedings of the 13th Texas Linguistic Society.
<https://docs.google.com/a/leahgeer.com/viewer?a=v&pid=sites&srcid=bGVhaGdlZXIuY29tfGhvbWV8Z3g6NTg2NGQ4MmU2N2M4YjQyYg>
- Meir, Irit. 1999. A perfect marker in Israeli Sign Language. *Sign Language & Linguistics* 2.1, 43-62.
- 松岡和美. 2015. 『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』東京：くろしお出版.
- 呂叔湘（主編）, 牛島徳次・菱沼透（監訳）. 2003. 『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』. 東京：東方書店.